

EU Indicators

発表日: 2018年11月14日(水)

欧州経済指標コメント: 7-9 月期ユーロ圏GDP

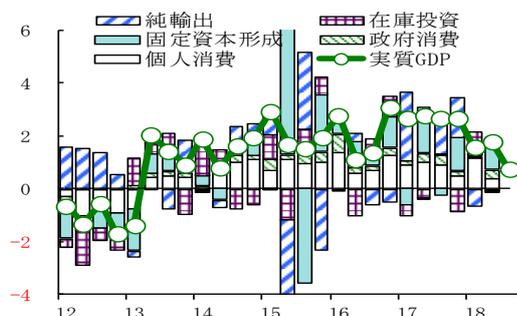
～ドイツが3年半振りのマイナス成長転落～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

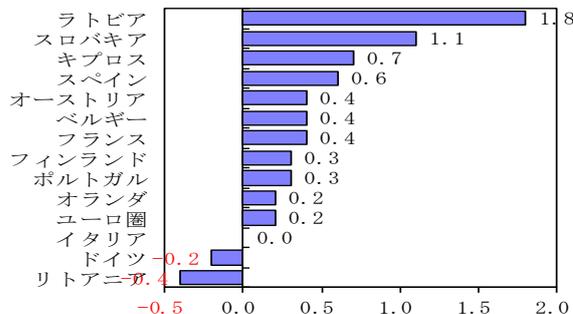
- 7-9月期のユーロ圏実質GDP成長率の二次速報値は前期比+0.2%と一時速報段階から不変（前期比年率値では+0.6%→+0.7%に僅かに上方修正）。国別計数は、フランス（4-6月期：同+0.2%→7-9月期：同+0.4%）の成長が再加速、スペイン（同+0.6%→同+0.6%）が高成長を維持した一方、ドイツ（同+0.5%→同▲0.2%）が2015年1-3月期以来のマイナス成長に転落、イタリア（同+0.2%→同ゼロ%）やオランダ（同+0.7%→同+0.2%）の成長が鈍化した。
- 需要項目別の内訳は12月7日の改定値で公表。ドイツの統計局が発表した需要項目別の概要によれば、輸出の落ち込みと輸入の増加の双方から外需が成長を下押し。内需は、設備投資、建設投資、政府消費が拡大した一方、個人消費が減少した。自動車の新排ガス試験（WLTP）の対応の遅れにより、同期の自動車生産が前期比▲7.4%と大幅に落ち込み（生産全体では同▲1.4%）、輸出の下押しに働いた模様。良好な雇用・所得環境を考えると消費の落ち込みも一時的なもののみられ、自動車の増産復帰と輸入増の一服と相俟って、10-12月期の成長は反動増が予想される。
- このようにドイツのマイナス成長転落は一時的な要因によるものとみられるが、足許で企業の業況判断が一段と慎重化、受注関連統計も奮わず、景気に力強さはみられない。個人消費を取り巻く良好な環境と足許で進行するユーロ安が景気を下支えしようが、大幅な再加速は期待できない。2018年のユーロ圏の成長率は1.9%に着地し、2019年は1%台半ばへの減速を予想する。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2018年7-9月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
16/10-12月期	4.1	3.1	(3.6)	2.4	1.3	5.8	(0.8)	▲0.5	6.3	7.9
17/1-3月期	3.6	2.7	(0.1)	1.7	0.9	▲2.9	(▲0.4)	2.6	7.2	1.8
17/4-6月期	4.8	2.8	(2.8)	1.9	1.5	8.6	(▲0.3)	▲0.0	4.2	4.6
17/7-9月期	4.0	2.7	(1.1)	1.7	1.8	▲1.1	(0.1)	1.5	5.3	2.2
17/10-12月期	3.7	2.7	(1.1)	1.0	0.8	6.3	(▲0.8)	1.5	8.8	6.0
18/1-3月期	2.9	1.6	(2.2)	2.2	0.3	0.4	(0.9)	▲0.6	▲2.9	▲1.8
18/4-6月期	3.6	1.8	(1.9)	0.8	1.5	5.9	(▲0.1)	▲0.0	4.2	4.8
18/7-9月期	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

